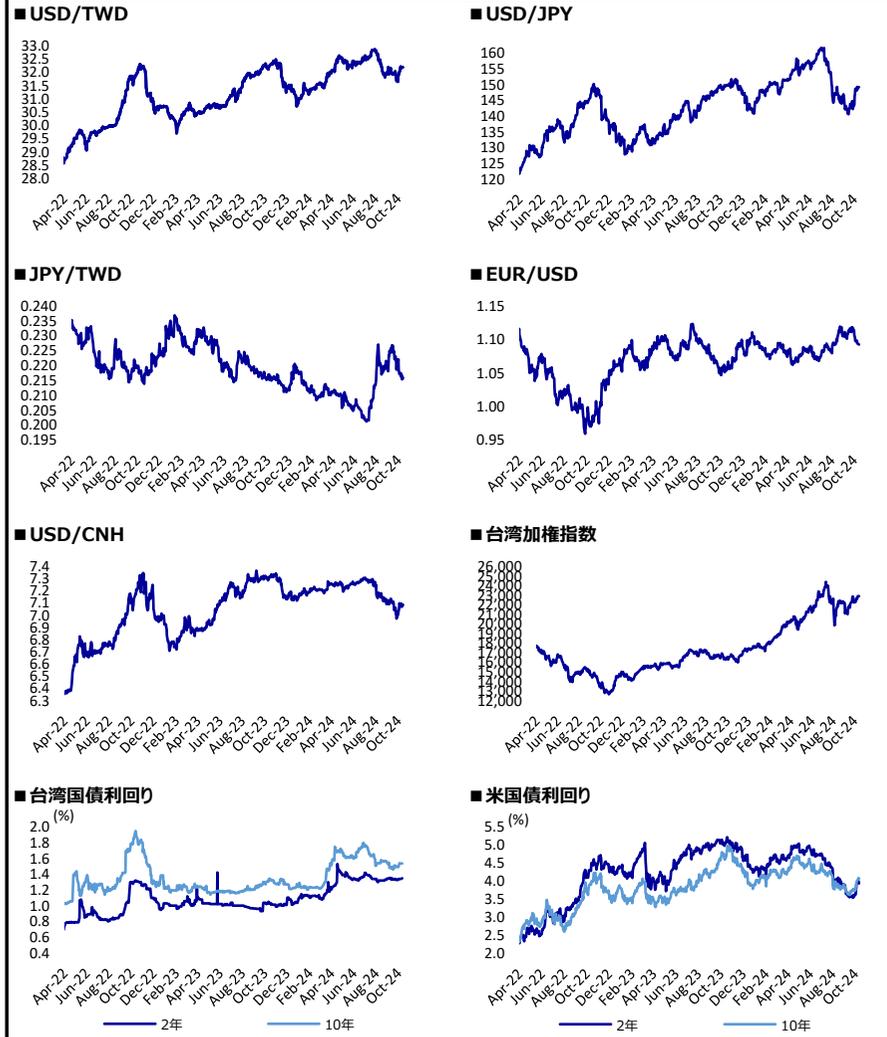


## 市場動向



## 先週の市場動向

**■USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/7は、32.040でオープン後、前週末海外時間に発表された米9月雇用統計が堅調な結果となっていたことを受けて米金利が上昇する中、ドル買いが進み32.10台半ばまで上昇。10/8は、中東情勢への懸念の高まり等を背景に台湾株が上値重く推移する中、外国人投資家による台湾株売りがまとまって見られ、台湾ドル売りが優勢な展開に。また、海外投資資金送金が見られていたこともドル買いを後押しし、一時32.254まで上昇した。10/9は、前日海外時間に米国株が上昇していたことを受けて、台湾株も連れ高となる中、外国人投資家による台湾株買いが見られ32.10台半ばまで下落。10/10は、台湾休場。10/11は、韓国中銀による利下げを受けて韓国株が上昇する中、台湾株も連れ高となりリスクセンチメントが改善。しかしその後、米金利の高止まりを受けて海外債券投資資金送金が見られ始め、32.10台後半で揉み合いの推移となった。最終的には前週比0.7%ドル高台湾ドル安の32.182で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は119.2億台湾ドル。

**■USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初10/7は148.70でオープン後、三村財務官より「投機的な動きを含めて為替市場の動向は緊張感を持って注視していく」との発言が聞かれ、為替介入への警戒感が高まったことでドル売りが進み148円台前半まで下落。10/8は、中東情勢への懸念が高まる中、リスクセンチメントの悪化から円買いが進み、一時147.35まで下落。その後、米金利が上昇する中、ドルが買い戻され148円台前半まで上昇。10/9は、中国財務相より「財政政策調整強化に関して説明する」との報道があったことを受けてリスクセンチメントが改善し、円売りが進み149円台前半まで上昇。10/10は、海外時間に発表された米9月CPIが市場予想を上回る結果となったことを受けて、ドル買いが進み一時149.58まで上昇。しかし、米雇用指標が軟調な結果となっていたことを受け、すぐさまドルが売り戻され148円台半ばまで下落した。10/11は、海外時間に発表された米9月PPIが市場予想を上回る堅調な結果となっていたことを受けてドル買いが優勢な展開となり、149円近辺まで上昇。最終的には前週比0.3%ドル高円安の149.12で先週の取引を終了。

## 今週の見通し

**■USD/TWD** 予想レンジ：32.050-32.350  
今週は揉み合いの推移を見込む。米金利は高止まりする一方、米経済腰折れ懸念が後退する場合、リスクセンチメントの改善が期待され、売り買い交錯となるであろう。

**■USD/JPY** 予想レンジ：148.00-151.00  
今週は揉み合いの推移を見込む。投機筋の円買いポジション削減も進みつつある中、円売り圧力には落ち着きが見られ始めるであろう。

## 今週の予定

10/14 (MON)	
10/15 (TUE)	
10/16 (WED)	米9月輸入物価
10/17 (THU)	日9月貿易収支、米10月フィラデルフィア連銀景況感指数、米9月小売売上高
10/18 (FRI)	日9月CPI、米9月新規住宅着工件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。